

清須学推進会議 第3回会議 議事要旨

日時	平成28年11月16日(水) 午前10時30分～11時55分	場所	清洲市民センター 3階 303会議室
出席者	推進会議 委員	原田委員（愛知県教育委員会文化財保護室 主査） 加藤（富）委員（郷土史家） 横井委員（清須市ガイドボランティア 会長） 加藤（暉）委員（清須市ガイドボランティア 副会長） 田中委員（清須市ガイドボランティア） 箕浦委員（西枇杷島町山車保存会・西枇杷島町まつり振興会 会長） ※会長 山本委員（キリンビール株式会社 名古屋工場 総務・広報担当） 石田委員（清須市観光協会事務局長（清須市産業課長）） ※副会長	
	清須市	事務局	

1 開会

- あいさつ （河口課長）
- 報告事項 （事務局）

2 議題 清須マイスターについて

- 資料説明 （事務局）
- 委員意見 （各委員）

清須学マイスターについて	
横井委員	実績審査のマイスターには、実績に加えて意欲のある人材を認定すべきである。
加藤（暉）委員	実績審査で認定するマイスター人は、長く活動できる人が望ましい。1年に1回くらいは勉強・報告会を開催する等、継続的な活動の場が欲しい。
田中委員	修了認定試験を行わないのであれば、講座への出席回数は4回以上とすべきである。 実績審査に推薦できる団体は、対象を広くすべきである。
山本委員	市内には活動団体が多様にあるので、ガイドボランティア以外の人でも実績審査で認定されるよう、認定会議の運営や開催時期については柔軟に対応すべき。 マイスター制度のあり方を考える際は、シビックプライドの醸成という事業の目的に立ち返って、その実現につながるように制度設計を行うとよい。
原田委員	今年の講座受講者が次年度以降もマイスター認定試験を受けられるのか、講義を受けていなくても受験できるのか、場合によっては認定を取り消すケースもあるのか等、要件をきちんと整理すべきである。
加藤（富）委員	講座修了の認定は半分の3回以上でよいのか。もっと多くすべきではないか。 ガイドボランティアは、知識だけではなく、話術、人間性や体力面からも考慮すべきではないか。推進委員の立場としては、認定することに難しさを感じる。

石田委員 （副会長）	何事も実践が大事である。実践の中で今後の改善点も出てくる。 清須学の目的は市民のシビックプライドの醸成であり、より多くの人に関われるように団体や企業単位の認証を考えてもよい。 マイスター取得者には、公共施設や飲食店の割引等何らかのインセンティブも必要。類似の取組事例もあるので、良い点は参考とすべきである。 将来的にシニアマイスター制度を想定するならば、バッジの色は銀の方が良い。
箕浦委員 （会長）	清須市が力を入れるべき資源は朝日遺跡である。合併して10年経ってもバラバラではいけないので、清洲城、山車や桜等の複数の資源を1つに集めてイベントを行うことも一案ではないか。 新しい事業は、スタート時は良くても段階的に参加者は減るので、担当部局を新しく設置するくらいの気持ちで継続性を持って取り組んで欲しい。

- 清須学推進事業標章（案）について
全会一致でA案と決定した。

3 閉会

- 次回会議は、3月を予定。